

## シンガポール日本人学校チャンギ校の国際教育の実践と授業実践

前シンガポール日本人学校小学部チャンギ校 教諭

福岡県春日市立日の出小学校 教諭 大石 泰輔

キーワード 国際理解教育、国際教育、現地理解、異文化体験、異文化交流

赴任校の概要（2024年3月）

学校名：シンガポール日本人学校小学部チャンギ校

The Japanese School Changi Campas

<https://www.sjs.edu.sg/changi/>

### 1 はじめに

本校は昨年度までIB（国際バカロレア）教育の研究を進めてきた。今年度は昨年度までの研究の成果と課題を生かしつつ、国際教育の在り方を研究している。そこで、実際にシンガポールでの体験活動を取り入れた国際教育を実践し、研究することは、多様なものの見方を深め、これからグローバル化時代を生きる児童にとって、有意義であると考え、多様な民族や人々の価値観に積極的に関わり、調査していきたいと考えた。

ここに本校の国際教育の実践と現地で行った授業実践を紹介したい。

### 2 国際教育の実践

#### (1) 学校としての取り組み

##### ① マレー系民族衣装デー「ハリラヤプアサ」



民族衣装デーのクラス写真

断食明けをお祝いするハリラヤプアサにちなんで、「マレー系民族衣装デー」の設定をしている。この日は、児童と職員がマレー系の民族衣装を着て登校し、ハリラヤプアサ（断食明けのお祝い）やイスラム教の習慣について学んだり、みんなで写真撮影をしたり、クトウツパという飾りを作ったりする活動を行っている。

##### ② インド系民族衣装デー「ディパバリ」

ヒンズー教徒のお祭りであるディパバリにちなんで「インド系民族衣装デー」を設定している。ディパバリの起源は諸説あるが、「善が悪に打ち勝つことを祝う」お祭りと言われ、町中がイルミネーションでライトアップされることから、光の祭典とも呼ばれる。この日は、児童と職員がインド系の民族衣装



ランゴリとクラス写真

を着て登校し、ヒンズー教について学んだり、みんなで写真撮影をしたり、国際広報委員会が作成した「ランゴリ」（色のついたお米で描いた絵）を鑑賞したりしている。

### ③ 中華系民族衣装デー・ライオンドラゴン鑑賞会「チャイニーズニューイヤー」

シンガポールで、一番の盛り上がりを見せるのが旧正月と言われるチャイニーズニューイヤーである。このお祝いにちなんで「中華系民族衣装デー」を設定している。この日は、児童と職員が中華系の民族衣装を着て登校し、旧正月や仏教、飾りの意味や食べ物について学んだり、みんなで写真撮影をしたりする活動を行っている。また、旧正月にシンガポールの街中のあちこちで見られるライオンドラゴンドダンスの団体を招き、全校児童で鑑賞を行っている。太鼓や銅鑼の迫力のある演奏に合わせて踊るドラゴンは本当に生きているようでとても興味深い。さらに、ライオンドラゴンはリズムに合わせて、飛んだり跳ねたりして中の2人の息がぴったり揃っていて感心した。



ライオンドラゴンの様子

## (2) 各学年としての取り組み

### ・4年探究科基礎「シンガポール探検Ⅰ」

4年生の探究科基礎（総合的な学習の時間）の学習では「シンガポール探検」という教材を作成し、シンガポールの現地理解教育を行った。児童たちはこれまでも探究科基礎の学習を通して、シンガポールの食文化について学習をし、実際に近くのホーカーセンターで食事をしたり、マーケットで買い物をしたりする体験をしながらシンガポールの現地理解の学習をしてきている。4年生では、シンガポールの民族について学び、シンガポールの良さや魅力を発信していくことを通して、児童たちが現地への理解を深めることができるようにしたいと考えた。どのように課題意識をもち、調べ、学びを進めていったのか紹介する。

第1時では課題意識をもたせるために、「シンガポールクイズ」を行った。そして、意外にも知らないことがたくさんあることに気付かせた。また、日本から旅行に行きたい国ランキングを紹介し、シンガポールがランキングに入っていないことを知らせることで、「もっとシンガポールの良さや魅力について伝えたい、紹介したい」という思いをもたせ、「シンガポールの魅力を日本に紹介しよう」という課題を設定した。ゴール像としては日本の小学校と連携し、オンラインを通して、実際に発信する場を設定した。

第2時では、課題を再確認した後、児童に「シンガポールの良さや魅力は?」と発問し、班でイメージマップに書かせることで、シンガポールの良さや魅力を整理し、方向づけることができるようにした。児童たちからはたくさんの観光地や食べ物などが出たが、それらはチャイナ系、マレー系、インド系の大きく3つに分けることができ、それぞれの民族の街について実際に見たり、体験したり、食べたりして、おすすめを見つけていくことにした。課題意識と目的をもたせた上で、チャイナタウン、リトルインディア、アラブストリートの3つの街の見学に行った。今回は、それぞれの街を歩いてみて、気付いたことや疑問に思ったことなどを見つける校外学習と位置付けて実施した。児童たちは、「チャイナタウンのお寺の様子をもっと見てみたい」「リトルインディアには金を扱っているお店がたくさんあった」「アラブストリートでは、モスクの中の様子を詳しく調べてみたい」などたくさんの気づきや発見、疑問があったようだ。また、見学だけでなく、体験として、ホーカーセンターで食事にも行った。児童たちは、シンガポール名物のチキンライスやサトウキビジュースなど注文し、現

地体験、理解を深めることができた。



サルタンモスク前でクラス写真

チャイナタウンのホーカーで食事

リトルインディアでクラス写真

### 3 まとめ

この3年間、シンガポール日本人学校チャンギ校で4、5、6年生をもたせてもらい、様々な授業実践を積むことができた。特に、シンガポールの人、もの、ことを学び、シンガポールの文化や考え方、人々など現地理解教育を実践できたことはとても有意義だったと考える。実際に校外に出て、シンガポールの自然や人々、食べ物や、宗教などを実際に見たり、聞いたり、食べたり、体験したりする活動を通して、子どもたちがシンガポールの良さを実感することができたのではないかと考える。また、他国の文化を知ることで自国の文化の良さ、面白さを感じることができた子ども達もいたのではないかと思う。なぜそのような考えるかと、私自身がそうだったと感じているからである。私自身、この期間、たくさんのところに出向き、シンガポールの人々の様子を見て、たくさんのことを感じた。

今後、益々、グローバル化が進み、変化が激しい世の中を生きる子どもたちにとって、このように多様なものの見方や考え方につながる経験をすることができたのは、子どもたち、そして私自身のこれからの教師生活の財産になったと考える。